

オヒルギ（ヒルギ科）

Bruguiera gymnorhiza (L.) Lam.

英語：Large-leafed orange mangrove, Oriental mangrove

マレーシア語：Pokok Tumu Merah



【概要】 オヒルギ *Bruguiera gymnorhiza* (L.) Lam. はヒルギ科オヒルギ属に分類される樹種の一つであり、熱帯および亜熱帯の汽水域に発達するマングローブ生態系を構成する樹種群の一つである。オヒルギは主にアジア・太平洋地域に分布しているが、東アフリカにも生育が見られ、奄美大島に分布の北限を有する。

【形態】 樹形は通直な幹を持つが、河川沿いや海岸線に近い前線においては樹形が歪む（写真 a）。樹高は熱帯域においては 20m を超える個体も観察されるが、琉球列島にみられる個体においては 15m 以下にとどまる。幹直径は 1m を超える個体がミクロネシアにおいて記録されている（Kauffman & Donato 2012）。幹肌は暗く、皮目が発達している（写真 b）。葉は対生で長さ 20cm 程度の楕円型の形状を持つ（写真 c）。呼吸根として膝根と呼ばれる屈曲した根を地上に露出させる（写真 d）。花は鮮やかな赤い萼片を有している（写真 e）。胎生種子と呼ばれる 10cm 程度の長さの散布体を形成し海流散布される（写真 f）。

【生態】 マングローブにおいては、海水の流入程度に応じて優占する種が変化する種の帯状分布パターンが観察されるが、本種は陸側に生育が見られる傾向がある。成熟した胎生種子の下部には、発根する箇所の色が変化し、斑点状の模様が見られる。また、本種は耐陰性を有し、遷移過程においては後期に出現する傾向がある。

【繁殖・育苗】 胎生種子を土壤に数cm埋めることで発根し、容易に育苗が可能である。また、耐陰性を有するためにオヒルギ林内の林床にはオヒルギの実生が多くみられる。

【成長・その他】 オヒルギが植林に使われることは稀であり、成長はほとんど記録されていない。マングローブ植林においては、自然な種の帯状分布に対応した植林が推奨されており、その観点においては、比較的陸側の汽水環境が植林適地と考えることができる。材比重（Basic density 容積密度数）は 0.66~0.84 g cm⁻³ 程度（Zanne et al. 2009）。

【主な参考文献】 Kauffman, J.B., Donato, D., 2012. Protocols for the Measurement, Monitoring and Reporting of Structure, Biomass and Carbon Stocks in Mangrove

森林再生テクニカルノート：荒廃地修復のための主な植栽樹種

Forests. Center for International Forestry Research Center (CIFOR) working paper, p. 86.

Zanne A.E. et al. (2009), Data from: Towards a worldwide wood economics spectrum, Dryad, Dataset, <https://doi.org/10.5061/dryad.234>

(国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター 諏訪錬平)

写真 a 撮影地：西表島 撮影年月：2022年3月、撮影者：木原友美

写真 b 撮影地：西表島 撮影年月：2022年3月 撮影者：諏訪錬平

写真 c 撮影地：西表島 撮影年月：2022年3月 撮影者：木原友美

写真 d 撮影地：西表島 撮影年月：2022年3月 撮影者：諏訪錬平

写真 e 撮影地：西表島 撮影年月：2022年3月 撮影者：木原友美